

問題課題発見・解決力

向上研修

企画書
(カリキュラム)



株式会社 日本マネジメント協会(中部)

〒464-0075 名古屋市千種区内山3-10-17 今池セントラルビル4F

TEL 052-745-6010 FAX 052-732-0010

MAIL jmi.145@aioros.ocn.ne.jp URL <https://www.jmi-t.co.jp>

問題課題発見・解決力向上研修

対象者(目安):一般・中堅職員

1. 研修の目的と全体像

(1) 目的

問題の本質にアプローチし解決する技術を学習し、早期に高い成果を生み出す能力を習得する

問題の本質に対して課題を設定し、P D C Aを前提とした対策を打つことで、早期に、高い成果を生み出すことができます。そのような能力を習得するためには、そのプロセスを知り、訓練を行うことが必要です。

当研修では、以下の流れで能力の習得を図ります。

- ① 現状における参加者様の思考プロセスについて、課題を把握して頂きます（グループワーク）
- ② 個人ワークを交えて、体系的に知識技術の習得を図ります（座学）
- ③ 座学を通して得た知識技術を活用し、①と同テーマで議論し、成長度合いを確認します。（グループワーク）

(2) 構成

仕事・プライベートの壁を克服し、自己実現（なりたい自分像）を図る

モノゴトの本質を明確にし、効率的に最大の成果を生み出す力を習得

研修で得る要素

『自ら考え行動するためにはどうすればよいか（仮）』

・グループワーク

について、座学で得た知識技術を活用して、グループワークにて議論する

・座学
（個人ワークを含む）

グループワークで見えてきた疑問や未解決要素を研修への問題意識として持ち、解決策またはそのヒントを掴む

・グループワーク

『自ら考え行動するためにはどうすればよいか（仮）』
について、グループワークで議論する

2-1. カリキュラム（午前）

時間	内容（午前）
9:00 ~ 10:50	<p>1. 研修の目的と全体像を確認</p> <p>2. グループワーク テーマ 『自ら考え行動するためにはどうすればよいか（仮）』</p> <p>(1) グループワークの説明</p> <p>(2) グループワーク実施</p> <p>① 個人ワーク 個人で意見を5つ付箋に書く</p> <p>② グループワーク</p> <p>a グループ内の意見をカテゴリーごとに整理します</p> <p>b 整理された意見をみて、テーマに応じて議論し結論を出します</p> <p>③ 各グループから議論内容と結論を発表し、皆で共有します</p> <p>(3) 講師所感</p> <div data-bbox="992 714 1353 869" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>各グループに講師が巡回し、議論の浅い点を指摘します。課題発見・解決力向上へ向けて、気づきを促します。</p> </div>
11:00 ~ 12:00	<p>3. 座学</p> <p>(1) 職場を取り巻く環境変化</p> <p>① 多様化するニーズに対して、組織力が必要</p> <p>② 一人ひとりの能力向上が必要</p> <p>③ その一つが「問題課題発見・解決力」</p> <p>(2) 問題、課題、対策の違い</p> <p>① 『問題』……あるべき姿と現状の差異 例 あるべき姿：残業なし 現状：週5時間分残業が発生中（問題） なぜ、同じモノを見て問題と捉える人と問題と捉えない人がいるのか →あるべき姿を全員で共有することの重要性</p> <p>② 『課題』……問題解決のための達成目標 例 週の残業時間5時間分を発生させないようにすること</p> <p>③ 『対策』……課題を克服するための具体的な行動内容 例 最も多くの時間を割いている〇〇業務を外部に委託する</p> <p>(3) 問題課題発見・解決力がある、ないとでは何が異なってくるのか</p> <p>(4) 自身の思考の傾向を知り、仲間と協同で問題解決にあたる</p> <p>(5) 問題課題発見・解決の全体像</p>

2-2. カリキュラム（午後）

時間	内容（午後）
13:00 ～ 14:20	<p>(6) 各ステップ</p> <p>第1ステップ：問題となっている事象を特定</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特定する意味（対策ありきの落とし穴） ② 特定する際の判断基準 <p>第2ステップ：特定した問題に対する原因追及</p> <ol style="list-style-type: none"> ① なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、なぜで見える本質的な原因 ② 因果構造図の作成：各々のなぜについて、因果関係を明らかにする ③ 全体に影響が出るような原因を特定する <p>第3ステップ：原因の発生防止、改善に向けての課題設定</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必ず、第1ステップ～第2ステップを経て設定する ② 定量表現で設定し、効果検証可能な状態にする <p>第4ステップ：対策立案</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対策立案時の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> ・成果に繋がること ・分かりやすいこと ・確実に実行できる ② 再度、「対策ありきの落とし穴」に注意する ③ いつまでに、どのレベルまでもっていくのか（定量表現設定） <p>第5ステップ：対策実行 →行動計画表の作成</p> <p>第6ステップ：効果検証</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 設定したレベルに到達したかどうか確認 ② 成功要因・失敗要因を分析し、組織内で見える化を図る <p>第7ステップ：未達の箇所を補填して対策を完遂する</p>
14:30 ～ 16:30	<p>4. グループワーク</p> <p>テーマ</p> <p>『自ら考え行動するためにはどうすればよいか（仮）』</p> <p>目的：座学で習得した知識技術を活用し、再度、午前中と同テーマでグループワークを実施し、習得レベル度を上げる</p> <p>5. まとめ</p>